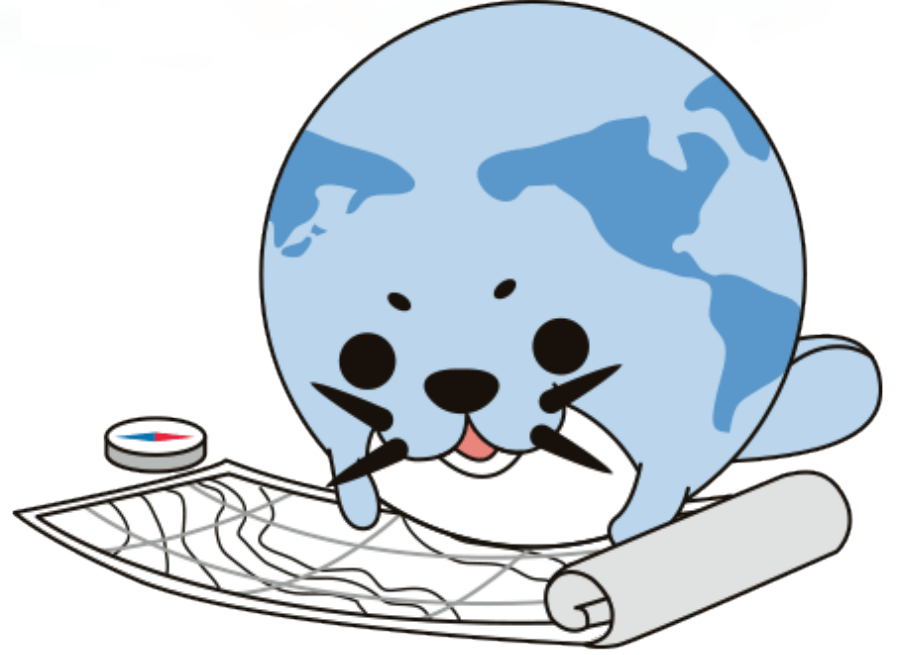


©立正大学地球環境科学部 じおたん

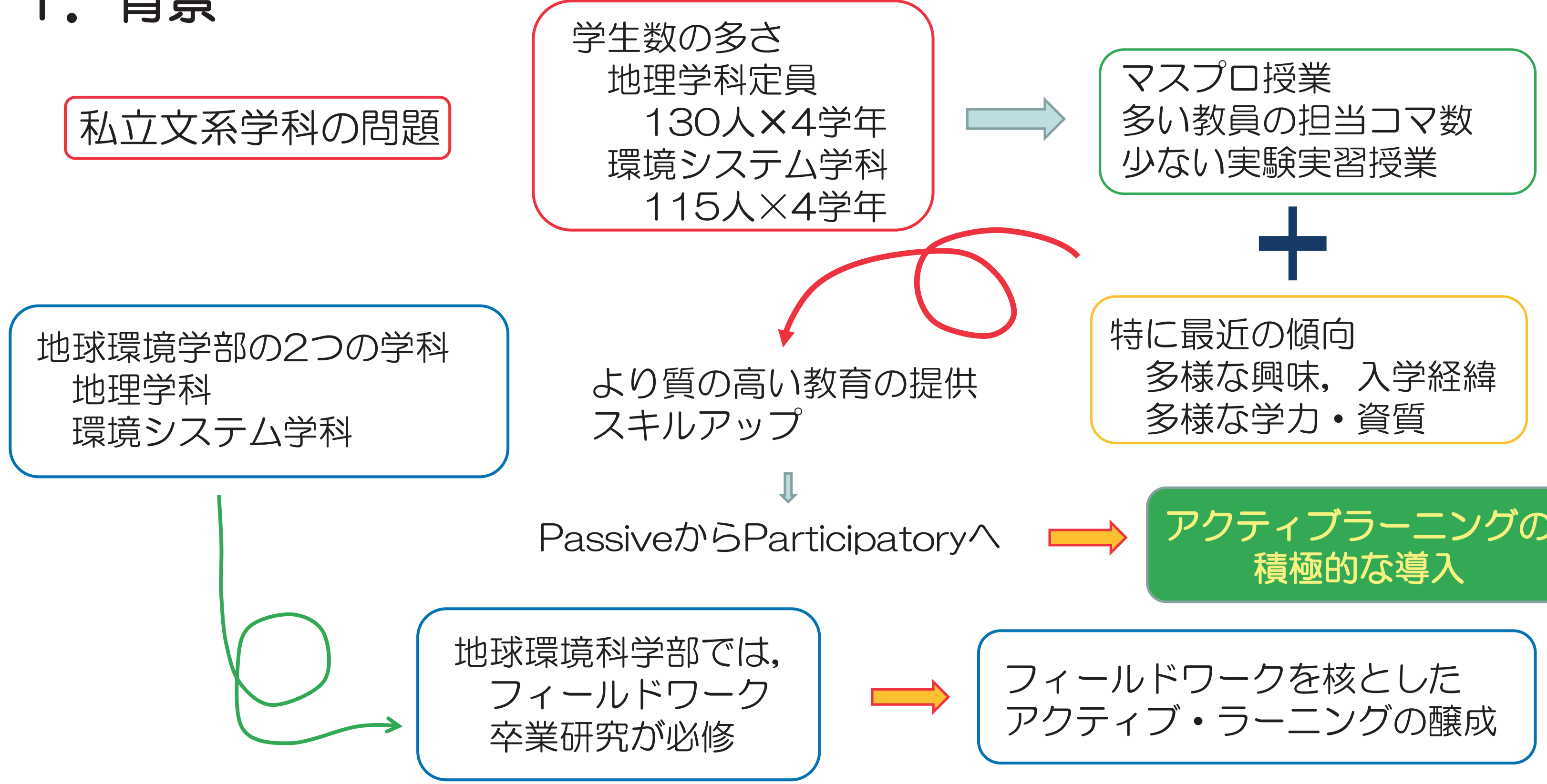
立正大学地球環境科学部における アクティブ・ラーニング4つの取り組みの展開



©立正大学地球環境科学部 じおたん

立正大学地球環境科学部地理学科 島津 弘

1. 背景



2. 立正大学地球環境科学部における4つの取り組み

A タブレットPCを利用した双方向教育 ・講義科目での双方向授業 ・意見の集約と議論 ・カラー写真の活用	B 予習用動画の作成と公開 ・コンテンツ作成研修 ・予習用動画の作成と公開 ・反転授業の展開
C 学生主体のフィールドワーク実習 ・ワークショップを採用した授業 ・地域連携型フィールドワーク ・海外実習での主体的調査 ・学生研究プロジェクトの推進	D リアル授業資料の収集と活用 ・授業資料の収集 ・リアル教材の活用と展示 ・学外貸出による地域連携

3. 4つの取り組みとその展開

A タブレットPCを利用した双方向授業 (科目数: 4 (H26) →48 (R1))

さまざまな場面における双方向

200人規模の大人数講義におけるリアルタイム双方向授業
 発問→解答・回答作成→投稿→リアルタイム紹介・比較による授業展開
 講義科目における実習・演習要素の取り込み: 地球環境科学部ならではの取り組み
 デジタル教材配信→図上作業→投稿→リアルタイム紹介・比較による授業展開
 室内実験実習におけるよりアクティブな授業展開
 実験実習データの投稿→実験グループごとの比較
 野外における効率的な実習運営
 フィールドワーク中のデータ共有



B 予習用動画の作成と公開 (科目数: 10 (H27) →53 (R1))

予習用動画の作成と反転授業の実施
 予習用動画作成・公開→学生の視聴→反転授業 (双方向授業との組み合わせ)
 実験実習のための予習用動画の作成・公開
 効率的な実験実習の実施
 予習用動画の復習利用



C 学生主体のフィールドワーク実習 (授業以外のフィールド・ワーク)

学生研究プロジェクト (1~3年)
 企画→提案→審査→助成金交付
 →研究→取りまとめ→研究発表

学生主体の地域連携プロジェクト
 地域の人たちを巻き込んだ
 地域活性化フィールドワーク・プロジェクト



D リアル授業資料の収集と活用 (授業使用アイテム数: 267 (R1))

地球や世界を学ぶ → 実物教材に触れることの重要性

海外実物教材を用いた授業展開 (国際理解教育: 地理学科)
 よりリアルな実験教材を用いたリアル実験 (環境システム学科)
 リアル教材の学内展示
 リアル教材の高校への貸し出し
 リアル教材を用いた特別授業



4. 評価と検証

- 授業改善アンケート
- 授業前後アンケート
- 外部評価委員会
- 学生評価委員会
- 学生による評価

効果 (学生の声)
 授業への参加の実感、教員 (授業) との距離が縮まる
 他の人の考えがわかる、自分の考えを位置付けられる
 理解度向上、資料を拡大して見ることができる
 リアルな動画で興味がわく
 自分のペースで勉強できる
 助成金によりフィールドワークに挑戦できる
 普通では触れられないものを手に取って見られる

問題点
 伝達できる知識の減少 → 予習用動画
 上位層の向上に問題 → 特別授業
 臨機応変な授業展開の必要 → なかなかむずかしい
 解答の均質性 = 出てくる解答が均質になりがち (学生の声)
 機械、アプリケーション、通信の不具合
 動画を見るのが面倒
 講義を聴いているほうが良い → 学生自身の改革
 教材が少なくじっくり見られない

